Ｕターン就農を契機とした新品目導入による経営発展
～砂丘地における家族経営の花き高収益モデル～

阿部秀和・典子（鶴岡市）

１　受賞者の概要

平成17年に夫婦で県外からＵターンし、指導農業士であった父の経営に参画する形で就農した。就農３年目に新たにアルストロメリアを導入し、生産コストを抑えながら規模拡大を図ってきた。集落営農法人への田の貸付けや、家族の役割分担の明確化などにより、経営の効率化を図りながら、収益性の高い花き経営を実践している。

２　特色ある活動

⑴　アルストロメリアの導入と生産コストを抑えた規模拡大

アルストロメリアの導入には、ハウス本体のほか地中冷却装置や種苗ライセンス契約など高額な初期投資を必要とし、急速な規模拡大は難しい品目とされていた。しかし、近隣でリタイヤした農家の農地をハウスごと購入・借り入れすることでハウス本体のコストを抑えるとともに、砂丘地の豊富な地下水を活用することで地中冷却に係るコストを抑えるなどしながら、短期間に鶴岡田川地域で最大の栽培面積に拡大した。

⑵　集落営農法人設立による花き生産への特化

下川下地区では、平成27年に水田農業（米、大豆）の効率化に向けて、秀和氏も構成員となり、11戸で「下川下農事組合法人」を設立した。法人設立後、組合員は所有する田を法人に貸し付けることが可能となり、個々の園芸品目に注力できる体制が整った。これにより、秀和氏はアルストロメリアの新品種の試作を積極的に引き受けて栽培技術を磨くとともに、炭酸ガス施用などの新技術も積極的に導入している。

⑶　家族による役割分担と安定した農業所得の確保

秀和氏は経営主として、花きの栽培管理、臨時雇用の労務管理、複式簿記を含む経営管理を担当し、典子氏は収穫された花きの選別を、父は農事組合法人の稲作作業と花木の栽培管理を、母は直売所向けの花束づくりを担当している。

農業経営における家族の役割分担を明確にし、それぞれが責任とやりがいを持って経営に参画することで、毎年、安定した売上と農業所得を確保している。

３　今後の発展方向

父母の年齢を考慮すると、今後も経営を維持・発展させていくためには、秀和氏以外にもある程度の知識と経験を持ち、ハウスの管理を任せられる人材を育成していく必要がある。このため、令和３年には経営を法人化して、福利厚生等の労働環境を整備した上で、数年以内には正社員を採用し、人材育成に着手したいと考えている。